

M-6-1-7

資料名 滿洲移民の實況

出所 日滿實業協會

作成年 19350329

寄贈者 編者

受入 図書館

注記 48P 22×15cm

昭和十年三月

滿洲移民の實況

日滿實業協會



挨拶

常務理事 中野金次郎氏

私から一寸御挨拶を申上げて、御紹介を致したいと存じます。本日は滿洲移民の實況に付て、拓務省の移民指導者山崎、宗御兩氏を煩しまして御講演を願ひ、活動寫眞の映寫をなすことに致したのであります。御多用の所を御來會下さいまして、洵に有難く存じます。第一次の移民指導者であります山崎芳雄氏は、札幌農科大學の御出身でありまして、滿鐵の農事試験場に七年間おいでになり、其後六年程朝鮮の方においでになつて、再び滿洲事變後移民の指導者としてその任に當られた方でありまして、第一次移民地であります佳木斯の永豊鎮の方を御擔任になつて居られるのであります。

宗光彦氏は駒場農科大學の御出身で、滿鐵の農事試験場や農業實習所に前後二十二年間御在任になりました。第二次の移民指導者として湖南營の方を御擔任になつた御方でありまして、何れも滿洲に於ける移民問題に付ては長い間の御經驗を御持ちになつて居られます。本日は移民問題に付て徹底的にその真相に就て御話願つて、實情を承知致したいといふ考をもちまして、御講演を願ふことに致し

て居ります。尙ほ活動寫眞は、第一次の移民情況を撮られたものが三卷ありまして、それに滿鐵の鏡泊湖の移民映寫が一卷と、新興滿洲國の全貌が五卷程ありますが、時間の許しませ限り是を御覽を願ひたいと考へるのであります。是より御講演を願ひまして、その後寫眞の映寫を願ふことに致して居ります。どうぞ御清聽を願ひます。

永豊鎮移民の實況

拓務省第一次移民團指導員

山崎芳雄氏

私は只今御紹介して戴きました永豊鎮の移民團に指導員として居ります山崎といふ者であります。今日御忙しい所を此處に御集り戴きまして、私共の話を聽いて戴くといふことは、私共自身にとつて非常に光榮と存じますのは勿論、尙ほあちらに居ります隊員も嘸ど悦ぶ事だらうと、感謝に堪へない次第であります。只今から簡單に現地の實情に付きまして申し上げたいと思ひます。

佳木斯といふ所は哈爾濱から船で二日航程の、丁度哈爾濱の東北の方に松花江を下つた所にあります。飛行機で行きますと、一時間四十分で到着致します。永豊鎮はその佳木斯から更に南々東、日本里數で十四里程行つた所にありまして、丁度高天原と云ふ感じを與へる様な高地にある一つの部落であつたのであります。此土地が昭和七年に第一回の移住地として選定されまして、私共が入植することになつたのであります。其位置は東經百三十度二十分、北緯四十六度二十分、大體その見當の所にある標高二百米位の土地であります。私共が昭和八年の春に移住地の境界を協定しましたのが推定面

積で約四萬町歩程ありましたがその大部分は森林であります。其内に約一萬町歩の可耕地がありまして、これは一人當り二十町歩を割り當てるにすぎずと五百人に付て一萬町歩あれば足りず、大體この見當で土地が選定されたのであります。その中で約五百町歩ばかりは既に開墾されて居りまして、私共が這入る前に土民がこれを耕作して居つたのであります。これを買収しまして、私共はその跡を受けて農業を始めたのであります。現在三百三十餘名の者があちらで建設事業に従事して居りますが、其内の百十三名は既に家族を呼び寄せましたが、其家族が百六十四名、その中には年寄も居れば、子供も居る。さうしてあちらに参りまして既に四人程子供が産れました。今年は出産豫定数だけでも約五十名位はありはしないだらうかと、これは移住地駐在の醫者さんの見當であります。

健康状態を申しますと、昭和七年に私共は入植したのであります。翌八年の夏に多數の下痢患者が出ました。これは吾々新しく入植した日本人ばかりでなく、一般の土民の間にもこの病氣が流行つたやうでありました。その中で重症者は赤痢みたやうな症状の者が出たのであります。先づあの地方には風土病に近いものとして、アミーバー赤痢とか或はそれに類似した病氣があるやうに思ひますが、併し昨年はこの消化器の疾患は非常に減りまして、一昨年に較べればもう比較にならぬ位少くなつたのであります。勿論これは衛生設備が完備するに伴ひ、又こちらから初て行つた人がその土地に

慣れさへすれば、なくなるものだと考へて差支へないやうに思ふのであります。昨年子供が疫痢で二人程亡くなりましたが、大人には赤痢の爲に死んだといふのはまだないのであります。それから一昨年窒扶斯に類似した患者も出まして、これで二人程亡くなりましたが、昨年は全然さういふ風の傳染病は發生しなかつたのであります。尙ほ天然痘の如きも土民の間には若干流行するやうに聞いて居りますが、これは種痘に依つて殆ど完全に豫防することが出来るので、移住者には毎年定期的に種痘をやつて居る譯であります。その外私共の健康問題としては、呼吸器の疾患で斃れるといふ者が少しあるやうに思ひます。其ですから此種疾患の既往症を持つた人は入植しないやうにすれば、宜いのではないかといふやうな感じも致しますが、これも今は創業早々でありまして、總ての設備が不完全である爲に健康を害う機会が多く、それが原因になつてさういふ病氣が出るのではないかと思つて居るのであります。大體に於て私共が觀ます所では、特に移民をして困るやうな病氣は先づないと申して差支へないやうに思ふのであります。

それから隊員の現在の氣分と申しますか、精神的方面のことを少し申上げて見ますと、入植しました最初には相當移民に適しない人も混じて居りまして、ざわ／＼したやうな氣分がありました。今日では總ての事情が判つて参りまして、すつかり落著いて居るのであります。其一例として私はこう

いふことを観て居るのであります。これは或る小隊員の所に嫁さんが内地から貰はれて参りました時の事ですが、一人の移住者に二人のお嫁さんが郷里で決つて終つた。其でどちらも斷る譯には行かぬといふので、小隊長が其内の一人を當なくして連れて参りましてさうして永豊鎮に這入つて、まあ適當に配偶者を見付けて結び付けて終つた譯であります。その御嫁さんの相手は大工さんでありまして、その大工さんが他の小隊員と一寸感情上の問題でどうもこゝに居るのが面白くないといふので、その嫁さんに、自分は退團したいと思ふが、お前は何うすると、こう話した所が、その嫁さんが言ふのには、私は屯墾隊に嫁入りして來たのだ、屯墾隊員以外の人の嫁さんになることは厭だ、だから若しあなたが退團したいならば、あなただけ移民地を出て下さいと言つたさうであります。その大工さんが私の所にやつて参りました、實は自分は小隊員とはこういう關係になつて居る。家内に相談した所が、お前だけ出よと云ひますが、どうしたものでせうか、こういう相談を受けたのであります。私はそれは一時の感情の行き違ひであるのだから決して移住地を去つてはいかぬ。殊にお前は大工なのだから彌榮村——私共は移住地を彌榮村と名を附けて居るのであります、この彌榮村を立派に建設されるには大工が非常に必要である、だから決して退村してはいけないといつて止めましたら、本人もそれで思ひ止つて現在でも眞面目に働いて居るのであります。

それから今一つさういふ例を持つて居ります。これも或る小隊に於て、まだ本人同志は御互に一向知らず郷里で決められて、お嫁さんは移住地に到着して初めて顔を合せました。所がお嫁さんに主人が氣に入らないので、そのお嫁さんは自分を内地から連れて來た男に一週間ばかり泣きながら口説いた。實は自分は内地には歸りたくない。やはり此の屯墾隊の仕事に全力を擧げたいと思ふ、だから屯墾隊には居りたいけれども、今の婿さんはどうしても自分の氣に入らぬ。何とかならぬだらうかといふ相談があつたさうであります。所が日の經つ間に段々に様子が分つて來ました爲めか、今では外の隊員が羨む位に御互にしつくり落著いて参つて居るのであります。これは家族の方々から觀た初めて移住地に來た人々のあの地方觀の一つの現はれだと私は思ふのであります、隊員も今日では移住地の農業條件が良い、又經濟條件も鐵道の新設確定に依つて非常に違つて來た、國民の後援も相當受けるやうになつて來たと云ふ様な色々の關係、特に移住地の各種條件が吾々の永住に適するといふことが分つて参りましたので、一同非常に落著いて参りました。私共は隊員の落著に對しては非常に尖銳に眼を瞞つて居る譯であります、初めの間は實際私共は指導員として、まあ詰らぬ者ながらも一緒に居りまして、随分心配したのであります。所が今日ではもう大丈夫だと思つて來たのであります。今までの隊員の空氣といふものは謂はゞ若干出鱈目——出鱈目といふと餘り云ひ過ぎるかも知れ

ませぬが、さういふ気分がありました。例へば馬を買ふにしても、安からうが、高からうが、必要な馬はどん／＼買つて来る、さういふ気分であつたのであります。所が昨年から小隊に經理の一部を移しました所が、非常に熱心さが違つて参りました、この間からも伐採した建築材の運搬に非常に馬が必要になりましたから、馬を買ひに行つて宜しいといつて會計の方から金を渡す。金を渡して馬を買ひにやりますと、三回程行きましたが三回とも買はないで歸つて来た。その部度金は會計に一旦返納する。其間に一厘も使ひ込まないといふことであります。それでよく聞いて見ますと、今まで五十圓位で買へた馬が、今日では七十圓、八十圓迄出さなければ佳木斯で買へないのであります。所が八十圓も出して馬を買つたのぢや到底吾々の經濟が持たない。だからまあ馬は買はずに我慢して歸つて来ました。さういふ話であります。

今一つ私が觀て嬉しく感じましたのは、昨年の暮に新京の移民會議から歸つて参りました、各小隊を泊り掛けで廻つたのであります。其の時或る小隊に行つて風呂に入れて貰ひました。隊員の嫁さんの案内で風呂に入れて貰つたのでありますが、極く小さい燈火がついて居りました所、それが裸火であつた爲に風で消えやうとする。所が私を暗やみで風呂に入れては濟まぬといふ嫁さんの氣持で、安全ランプを吊つて呉れました。私は湯槽の中から見て居ると、今度も極く小さいランプをつけ

て行つたのでありますが、その後を通つた小隊長が風呂の燈が大きすぎるといつて、這入つて来て亦た本當に小さい燈にして出て行つたのであります。その時に風呂の中に居て私は考へました。この氣分になつて呉れば、もう大抵は大丈夫だとかう感じたのであります。今まで世間から兎や角と風評を受けましたけれども、只今では隊員も餘程落著いて参りました、眞劍にやる氣分が十分に現はれて來たと私は觀て悦んで居るのであります。隊員の狀態はそれ位に致しまして、今度は農業方面に付て少し申し上げます。

北滿の農業は、土地が北方に偏して居る爲に、日本内地の人が行つても駄目だらうと、かういふ風に曲解されるだらうと、私は思ふのであります。私共七年間程南滿洲の熊岳城に居りまして、南滿の農業と今の北滿の農業とを比較して見ますと、決して經營上優るとも劣りはしないと見て居るのであります。作物の種類などに依りますと若干は相違するかも知れませぬが、例へば南滿では棉がよく出來ます。又林檎、梨、葡萄の様な果物がよく出來るのであります。杏子、山梨、山葡萄、かういふものがあります。唯だ昨年これは西比利亞の方から送つて來た林檎の種類であり哈爾濱で育てられた苗が、第二次移民團に送られて來ましたが當時第二次移住地は匪賊に襲撃されて居て、何時持つて行けるか分ら

ぬ。其間に枯れるかも知らぬから、第二次移民團で植ゑるのを第一次で貰つたのであります。所が非常に成績がよく全部活着して居ります。(手で示す) 昨年是一年間に丁度この位伸びたのであります。冬の越し方如何に依つてはまあ林檎も或は出来るだらう。哈爾濱で出来るさうでありますから、多分私の方でも育つのだらうと思ひますが、結果しましても、これは實は到底南滿のものには及ばない、全然比較にはならぬだらうと思ひますが、唯吾々を悦ばせるだけの品物が出来れば何でも宜いと、こう考へて居るのであります。併しさういふ特殊なものは出来ませぬけれども、普通の作物はよく出来ます。殊に普通の作物も若干其質に就いて考へますと、南滿のものに或は劣るかも知れませぬけれども、收量に至つては南の方に優るとも劣らないのであります。よく内地に於て、滿洲移民は粟や高粱許りを食へなければならぬ、さういふ覺悟の移民でなければ駄目であると云つて、だから日本人の移住は不適當である。さういふ話をされる方が大分多いやうに思つて居りますが、これはさうでないのであります、實際はあの地方でも米がよく出来ます。で米の話を申し上げますと、あの地方には吾々が這入る前に少くとも五六年位前から鮮人が水田經營をやつて居りましたし、又吾々の居る所よりももつと川下に行きますと十何年間も水田を經營して居たのであります。私共が永豐鎮に於て一番米作に付て心配しましたのは、成育期間が短い、隨つて霜の害を被つて、思はぬ不作を招きはしない

だらうか、さういふ心配があつたのであります。所がそれは全く杞憂であるといふことが過去二箇年間の經驗によつて分つたのであります。丁度永豐鎮から二里ばかり行つた所に鮮人があの當時五年間も水田を作つて居つた所があります。それを私が入植した年に始終視察に行つて調査をして參つたのであります、五年間に失敗した年があるかといふと、全然ないといふ。それで私は、これは大丈夫稲作が出来るのだなと思ひましたが、併しその二里ばかり離れた所でも、今私共の居ります永豐鎮とは若干標高の差がありまして、吾々の方が少し位置が高い。その點を心配したのであります、併し私共の居る直ぐ附近でも鮮人が二三年間稲作をやつて居た形跡がある。現在でも移民團本部の西の方では水田をやつて居るのであります。その成績も宜しい。さうして昭和八年に北大營小隊で二畝ばかりの水稲を作つて見たのであります。所が第一回に蒔いたのは水禽に皆種子を喰はれてしまつたので、第二回に蒔き直したのが立派に實が入りました。昨年は匪賊の害を受けまして、適期に種を下すことが出来ませぬでしたが、五月二十六日に種子を蒔きまして、それが立派に成熟しました。二町歩程作つたのであります、白米で三十石の少し上を收穫したのであります。一段歩當りから申しますと、白米で一石五斗の收穫があつた譯であります、これは全然無肥料で、而も極く粗放な作り方をし、尙ほこれだけの收穫があつた譯で、之を日本内地の水田作に較べて、寧ろ私は面白いと感じたので

あります。其で朝鮮なり、滿洲の經驗から考へまして、吾々日本人が本氣に稻作をやる場合は、少くとも一反歩から粃で四石、玄米で二石前後の收穫は必ず平年に穫り得るところ信じて居ります。又鮮人がやつて居りますのは良い年には玄米二石以上の收穫に當つて居るのであります。而もあちらの稲作に付て内地より尙ほ面白いと思ふことは、稲作の期間が非常に短いのであります。隨て手入をする回数も少くて宜いのであります。除草も二回位で済む。かういふ點は寧ろ稲作上有利ぢやないかと思ふ位であります。其で一寸見た所は草は丈が低くて貧弱に見えますが、分蘖が非常に多くて、枝が澤山出ますから、結局に於て收量が多い。かういふ特長を持つて居ります。

その外小麦作は非常に宜しい。大麥もよく出来る。私共は本當に農業を始めたならば、先づ小麦は段當り一石位は間違ひなく穫れるだらうと見當を付けて居ります。昨年の收穫の良い所は七八斗に廻つて居ります。悪い所は五斗位であります。併しこれは非常な荒地に蒔いたのであります。本當の耕作が出来て居らぬのでありますから、先づ一石位は大丈夫穫れるのであります。もつとそれ以上の成績を擧げ得る見當を持つた居ります。又大麥は非常に質が良く、さうして今年大部分の小隊が段當り一石五斗位穫つて居るのであります。小麦も、大麥も質は良く、量が相當穫れる。これをさつき申しました南滿あたりを較べて見ますと、林檎や棉が出来ない代りに、あちらに出来ない麥類が非

常によく出来る。寧ろ南滿より優れた點だらうと思ふのであります。その外作物としては高粱、粟、黍、玉蜀黍、大豆、小豆、それから菜豆、鶉豆、あゝいふものは非常によく出来ます。それから馬鈴薯なども、大きいのは一個二百匁位の奴が附いて居ります。吾々も今まであんな薯を見たことのないやうな、一つの目方が二百匁位あるのがあるのであります。これ等は普通作物の御話であります。特用作物としても非常に面白いものがあります——よく經濟的に云々といふことが言はれますけれども、寧ろ内地あたりよりも經濟的には作物が豊富であると思ふのであります。纖維作物としては大麻、亞麻の如きものが出来ます、亞麻は今まで質が悪いと見られて居りましたが、反つて質は非常に良いといふことが最近に分つて來たのであります。北海道の高級品に優るとも劣らない質である。これは哈爾濱に製麻會社が出来まして、この専門家が言つて居るのでありますから間違ひはないのであります。その外簡単な纖維作物としては苧麻といふやうなものもあります。それから工業用の作物としては砂糖大根(シュガービート)これは非常によく出来る。一昨年も、昨年も砂糖大根を作らせましたが、殊に一昨年はよく出来ました。最も悪い小隊でも、段當り五百貫位穫つて居ります。良い小隊では千五百貫といふやうな成績を擧げて居ります。私共は少くとも移住者の經濟を緩和する意味に於て自給自足的に自分達の食べる砂糖丈でも穫りたい、こう考へて居るのであります。昨年穫

りました大根から飴を作らせて居ります。所が此の砂糖大根から簡単に自家用の結晶糖が出来ることは公主嶺の滿鐵の農事試験場で發表されて居ります。又た朝鮮の咸鏡南北道に於ても自家生産で結晶糖が出来たのであります。私共昨年来結晶糖を作らうと思つて苦心しましたが、どうも飴にしかありませんでした。どこか操作が悪いのだらうと思ひますが、専門家に教へて貰ひたいと思つて居ります。此處に持つた來てあるのは砂糖大根の飴であります。各小隊ともこの飴を四斗樽に一個づつ貯藏して居ります。北大營小隊の如きは四斗樽に二本位獲れるだらうと思ひます。その含糖率も相當に高い。これは第二次の移民團の方で實驗したのであります。其多いのは十六%、少いのも十二%、三位は含んで居るやうであります。假に含糖量を十%と見ましても、一段歩作ればもう一年間喰ふ丈けの砂糖は大丈夫だと思はれるのであります。糖分の話を序でに申しますが、糖分に就てはその外にも蜜蜂の成績が非常によいのであります。この蜜蜂の飼育に依りまして蜂蜜を得ることも出来るのであります。

それから尙ほ煙草があります。この煙草が非常によく出来る、これは過去二箇年間の栽培成績から微しましても、又土民の経験から觀ましても、非常によく出来るのであります。昨年北大營小隊は一段歩を完全に作つて見たのであります。それから乾燥した葉を六十貫程收穫して居ります。北大營

小隊には山形縣で専門に煙草を作つて居つた者が五六名居ります。その専門家の話から聽いても非常に良いと言つて居ります。(實物を示す)これはその出来た乾葉であります。實際の草立ちには私共の背より高いくらい伸びて居ります。大きい葉の例を挙げますと、長さが三尺五寸、幅が一尺五寸といふやうな大きな葉もあります。大形のが品質が良いと決つて居る譯ではありませんが、それに依つても煙草がよく出来ることを想像して戴きたいと思ひます。これも經營に取り入れ得る、詰り言換へますれば収入を圖るのに都合の好い特殊作物と言ひ得るのであります。

尙ほこの外ビール製造になくてはならぬホップ、これも大丈夫出来るのであります。出来るといふのには理由があります。私が熊岳城に居ります時に、北滿鐵道西部線の博克圖ボクシヤダウといふ停車場附近で濱口由次郎といふ人に試験をして貰つたことがあります。亦た東部線の一面坡でも栽培して居ります。此の人は滿鐵の補助金を貰ひまして、約十町歩ばかりホップを作つて居つたと思ひます。ホップといふものは大體草丈の高くなる蔓性の作物でありますから、これにはどうしても支柱が必要であります。支柱が手に入り易い所でなければ栽培が困難だといふことになるのであります。私共の居ります所は幸に支柱は無盡藏に供給出来ます。それから尙ほホップ栽培に必要な條件としましては、雨が少くても土地が肥えて居り、さうして風も少い、かういふことがホップ栽培によいのであります。熊岳

城の試験場でホップの試験をしましたけれども、實際南滿にはホップの栽培適地がないが、北滿にはホップの栽培地を求めることが出来るのであります。而もこのホップはアメリカ、ドイツあたりから一ヶ年に百萬圓近い輸入があると思つて居ります。現在では多少數字が違つて居るかも知れませんが、兎に角それくらゐの輸入はあると思つて居ります。これが我が勢力範圍の滿洲で生産されるといふことになれば、國策上から見ても非常に良いと思つて居ります。

今度は野菜に付て申しますと、栽培し得る野菜の種類が多く、其の品質も相當良い、殆ど日本内地で出来る野菜は何でも出来ます、唯日本から持つて行つた大根が、餘り地質が良い爲か蟲が附く、地上部はさうでもないが、根の方に非常に附く、蟲さへ附かなければ、質が緻密で甘味がありまして非常にうまい大根が出来るのであります。ところが引抜いて見ると殆ど蟲が附いて居る、併し北海道でもさういふ實例がありました、この蟲を防ぐ爲に昇汞水を使ふと殆ど完全に防げると云ふのであります。さうすれば立派な大根が出来るといふことを今度私は内地に歸つて聞いたのであります。今年は早速實施して見たいと思つて居ります。若しそれで完全に防げれば北滿に於ても立派な澤庵漬が食へることになる譯であります。

次は西瓜の話であります。西瓜や甜瓜、こんなものは私が以前北滿を旅行した時には良品が出来ないものであると思つて居りましたが、吾々が移民地に入りまして、日本内地から大和西瓜などを持つて行つて試作した結果、非常に甘いのが出来るのであります。内地の西瓜より甘いと云ふことは云へないけれども、餘り内地に劣らぬ西瓜がこゝ二年間出来て居りますから、今後も大丈夫毎年出来るであらうと思つて居ります。

その外トマトとか茄子とか、さふいふものも立派に出来るのであります、特にあちらに適して居ると思ひましたのは、キャベツ、花椰菜、蕪甘藍等であります。昨年木村といふ東京日々新聞の客員の方がお見えになりました時に、蕪甘藍の細く切つたのに湯を通したのと、キスゲといふ百合科の花にソースをかけて出したら、非常にうまいと言つて喜んで喰べられました。兎に角甘藍類は質が良いのであります。それから球莖^{ちしや}などもよく出来ます。あちらには在來の高莖もありますが、球莖は皆大きな球になるのであります。要するに技術方面から見ました北滿の農業は非常に豊かであるといひ得るのであります。

次に畜産に付て申上げます。あの土地は野草が非常に豊富であり、草原でない所は一つもない、木を伐つた跡地は皆草原になる、而もその草は非常に質が良い。家畜は禾本科の草を好んで食べるのであります、この禾本科の草が非常に多い。營養價值から申しますと豇科の草がよいのであります。

が、この萱科の草も澤山ある。例へば萩とか或は車軸草とか、名を申しても分らぬと思ひますが、或は南天萩とか云ふ萱科の雑草が澤山あります。尙ほ南の方から持つて行つてルーサンといふ本當の萱科の牧草を作りましても一箇年間にこのくらゐも（手で示す）伸るのであります。當分牧草を作らんでも、開墾して抛つて置くと非常に良い草が澤山採れる。私は朝鮮に居りましたとき山の麓で暫く農業をやつて居つたことがあります、あの朝鮮では牛なり馬なりの一頭に食はせる草を採つて來ようとするとなか／＼時間が掛る。ところが今居ります附近は家の側で十分も掛れば一頭分の草をかり取ることが出来る。これは畜産に非常に恵まれた天恵であると思ひます。

あの地方を旅行して一番目に著くのは家畜が割合に肥えて居る、放飼をして居る豚がまん丸になつて居る。南の方とは全く違ふのであります。その原因を考へて見ますと、耕作面積が廣いから随つて飼料が豊富であるといふことも原因であらうと思ひますが、もう一つには牧草が良いからであらうといふことも言ひ得るのであります。これくらゐ畜産に天恵を有つて居りますので、吾々の農業には、その危険性を緩和するといふ意味から云つても、どうしても家畜の飼養を加へなければならぬと思つて居るのであります。隊員にも吾々は有畜農業をやるのだと言つて來た譯であります。ところが日本人はこの有畜農業がよく分らないのであります。その價値を認めることも出来ないし、又家畜の飼ひ

方も下手であります。利用することも薩張り知らない。そこで今の移民指導といふものは、さういふ方面に就ては一種の教育をやつて居るのであります。家畜に慣らすといふ教育をして居るのであります。所が段々にその價値が分つて參りました。昭和八年に馬の體軀をもう少し大きくするといふ意味で、種馬を二頭買つて來ました。それから全く吾々の地方に飼はれて居らない乳牛を入れて見よう、吾々の經營に乳牛を加へたいといふのでホルスタインや、シンメンタールの雜種を飼つて見ました。それから緬羊も入れて見ました。あの地方では極く少數ではありますが、支那料理に使ふ肉用の緬羊を飼つて居りますが、先づ殆ど羊は居ないと云つてよいくらゐ少いのであります。滿鐵から預けて貰ひまして、メリノ種と、メリノ種の雜種、在來種などを入れました。初めは五十頭程入れましたが、二年後には八十七頭に殖えました。亦た昨年の秋に日滿緬羊協會から貸附して戴きまして、現在ではその頭数を合せると三百四十頭も飼つて居る譯であります。その外在來の豚は繁殖率が高くて非常にその點は良いのでありますが、肥育率が低いのであります。又肉の歩止りも割合に少いと思ひまして、パークシヤ種を入れて改良しようと思つて居ります。その結果は一代雜種となると多産で肥え易い、即ち双方の特徴を集めるやうなことになると思つて居ります。それから先刻申しました蜜蜂を四群程入れて見たのであります。それから鶏も向ふの在來種ではどうも冬期間に卵を産まない、改良種

を入れたらばどういふ風になるかと思ひまして、改良種の肉用種、卵用種、及び卵肉兼用種といふやうなものを入れて見たのであります。即ち白色レグホーン、褐色レグホーン、名古屋種、三河種、ロード、ロックといふやうな六種類を入れて見ました。ロードも名古屋種も、白レグも皆産卵率はよいのであります。十二月の初めから卵を産み始めたのであります。それである寒い土地でも、鶏舎を良くし、飼料を良くすれば卵を産む、これは一面から考へればそんなことをやらなくても産むと言はれるかも知れませんが、やはり吾々は實際を掴まなければ承知出来ないものでありまして、實際やつて見た結果はちやんと産むやうになつて居るのであります。それから蜜蜂が特に良いと思ひますことは、あの地方では四月雪が溶けると同時に花が咲き初めまして、秋霜が降るまで野原は一面の花の海であります。花の多い所が極樂ならば永豊鎮はまるで極樂だと言つてよいくらゐる野の花が澤山あります。殊にロシア人は菩提樹の花が一番良い蜜を出すと言つて居るさうでありますが、あちらの山には菩提樹の花が澤山ある。將來あの地方の特産物として蜂蜜を出すことが出来るであらうと思つて居る位であります。一昨年四群程飼つたのが、昨年は十五群になつて、普通分封させますと蜜が採れないのであります。又採れても少量であります。分封しながら昨年は六斗四升三合の蜜を取つたのであります。焼酎を蜜に入れても客さんに保命酒といふ名を付けて御馳走して居ります。非常に良い保命

酒だと言つて喜ばれます。

それから乳牛のことを申しますと、初めホルスタイン種を入れると言つたところが叱られたのであります。さういふ高級のものを處女地に入れることは無謀だと言ふ。ところが一般に學者といふものは創業が下手であります。良いものを見付け出すのは案外學者でなくして普通の百姓であります。百姓が良いものを見付けて學者が此に理窟を付ける、これが實際の場合に多いやうに思ふのであります。私共はさういふ弊に陥らないで、何も試験だ、早く良い成績を挙げればよい、失敗したらそれは駄目だといふ結論を挙げればよいといふ意味で、反對を押切つてホルスタイン種を入れたのであります。ところがその年の冬に非常に太つて良い成績を挙げたのであります。さうして昨年五月には立派な子を産みまして、乳も澤山出ます。一番多い時は一日に一斗七升三合といふ泌乳量を示して居ります。同じく五月には雑種が一頭産みまして、これも七升位乳を出します、今年の一月も一頭産みまして、これも七升位づゝ出して居ります。今までまだ病氣をしませんし其他何等故障を認めないのであります。

それから緬羊に付てはどうかと申しますと、これも高級品を入れても何等故障がない、今のところ病氣の爲に斃れたといふ羊はないのであります。唯だ穀物を食ひ過ぎた爲に死んだのは二、三頭出ま

したけれども、病氣の爲に斃れたといふのはない、昨年の春は六十七頭から四十二貫の毛を刈りまして、それを以てホームズパンの講習會をやりました。さうして服地を織つたり、毛絲を紡いで編物をしたりして居ります。この四月に松坂屋で大滿洲國展覽會があるさうでありまして、それに出品するやうに今各小隊員に作らして居ります。かういふ講習會をやりまして、隊員は非常に希望を見出したのであります。畜産の方も大丈夫だ、吾々の初めに翹望して居つたところの有畜農業が出来るといふことがすつかり見當が著いた譯であります。

それから私共の方には山林が近くにありましていろ／＼の木が生へて居ります。炭を焼いたり、建築材を出すといふことも勿論出来すけれども、吾々の移住地は木工もかなり多く居りますので、將來は家具類なども造つて賣出す、さうして収入を圖りたいといふ方針も有つて居ります。尙ほ山林の中には石炭の露頭も見付けて居るのであります。

それから礦産物でありますが、貴重なる貴金屬に屬するものでなくて、差當り吾々の日常必要のものとしては石灰が到るところにある。約半里ばかり行つた山の中はずつと石灰岩を以て出来て居る、薪で石灰を焼いて吾々の建築に使つて居る状態であります。尙ほ花崗岩の非常に良い採取地がありまして、二三箇所の近い所に澤山出るのであります。將來の建築問題もこの石を使ひ、この石灰を

使へば面白いと思つて居るのであります。

話は逆になりましたけれども、私共の移民團の編成に付て一言申し上げますと、十二個小隊に分けて、一縣一個小隊にして居るのであります。その大きな小隊は六十名ぐらゐは居ります。小いので十二名で、縣を單位に纏めて居る譯であります。他に本部班といふものも作りました。これは全體を働かすにはいろ／＼の施設が必要でありまして、例へば馬には蹄鐵を打たなければならぬし、農具が壊はれれば、金の部分は鍛冶屋で直さなければならぬ。家を建てるには大工が要る、相當小麥粉も食はなければなりませんから製粉機を以て製粉もしなければならぬ。それから本部には彈藥を持つて居りまして、警備もしなければならぬ。要するに本部は吾々移民團の心臓部に當りまして、それが永豊鎮と云ふ部落に置いてある譯であります。各小隊はその永豊鎮から一里乃至二里、三里ぐらゐの所にバラ撒いて存在して居るのであります。小隊と小隊の間は約二千メートル、遠くても三千メートルぐらゐであります。近いところは千二百メートルに接近した所もあります。本部でやつて居ります仕事を申しますと、農産加工班といふのは、今申しましたやうに、製粉、精米及び味噌、醬油の醸造、酒も時々造ります。味噌、醬油は昭和八年の八月以來自給自足をやつて居ります。その質が良いので、現役の駐屯軍の方からも、或は滿洲側の縣の役人からもぜひ譲つて貰ひたいといふことで、ぼつ

く分けてやつて居ります。今年からは少し大量に造つて外部に賣出さうかといふ計畫も立て、居るのであります。都合のよいことにはこの原料は皆移住地で出来る、唯買はなければならぬのは鹽だけであります。それで將來この方面の加工は十分に發展させたいと思つて居ります。それから大豆が盛んに出来ますので、家畜を有つて居りましても飼料には困らぬ。大豆をその儘飼料にやるのは勿體ないから、簡単に製油機械を造りまして、油を搾つて其粕は飼料に使ひ、油は賣つて居ります。自分達も多少調理に使つて居ります。木工班は建築のことをやります。鍛工班は鍛冶屋をやり、蹄鐵工班は馬の蹄鐵を打つたり牛の蹄鐵を打つ、尙家畜の治療もする。それから製材機を運轉して建築用の製材も致して居ります。さうして隊内で使ふばかりでなく、やはり國道局の架橋材料とか、或は軍隊の應急材料等にも昨年からぼつ／＼賣つて居るのであります。その外販賣部といふのを設けまして、隊員にいろ／＼の日用品を賣つて居ります。この販賣部は消極の意味の販賣部でなくして、今年からは積極的の意味で移住地の生産物も賣り出す。この意味の販賣部も計畫して居ります。

それから病氣に對しては専門のお醫者さんが居ります。京城醫科大學を卒業した醫學士の人が病室を設けて診療に當つて下さる譯でありまして、斯かる診療施設に就ても或る意味に於ては内地の農村より却て良いかとも考へられるくらいであります。

その外本部には昨年十一月から學校を建てまして、現在では小學校の生徒が七名程居ります。今年は現在居る者だけでもあと六名殖えまして十三名になる譯であります。只今病氣して居る者が癒れば十四名の生徒が居る譯であります。尙ほ今年の家族招致に従つて學齡の兒童も來るであらうと思ひますから、結局二十名ぐらゐの生徒が出来るだらうと思ひます。

最後に匪賊の狀況を話しますと、吾々は昭和七年十月四日の晩に佳木斯に著いたのでありますが、その著いた晩に丁度佳木斯が匪賊に襲はれたのであります。その晩の戦闘は現役には八名程死傷者を出したのであります。私共の今の仕事は彈丸の洗禮を受けて始つたやうなものであります。佳木斯に居ります間に、その後二回程襲撃を受けたのであります。一回は十二月十五日の晩に大砲で攻撃されたのであります。その次は二月二十五日の午後十二時から、約四五百位の匪賊が屯墾隊の宿泊して居りました直ぐ附近に攻めて來ました。十一時頃から戦闘が始つて朝の五時迄繼續したのであります。私共の方には一人の怪我人も、戦死者もなく、反つて匪賊の方には大なる損傷を與へたのであります。行きました當時は、當時佳木斯の警備に當つて居りました現役兵と共同致しまして、佳木斯の市街三箇所に歩哨を出したのでありますが現役兵が全部討伐に出れば、私共が佳木斯市街の全部の警備に當つて居つたといふやうな状態であります。その後移民地である永豐鎮に入りまして、度々匪賊と

の戦闘を致しました、今日迄に犠牲者が丁度十一名出て居るのであります。この報告を致すといふことは、私共指導員としては洵に申譯ないやうな氣が致すのでありますけれども、これも已むを得ないのであります。併し考へ様に依りますと、本當に尊き犠牲で痛ましい次第でありますけれども、此等の人々の御墓を造つた事は、移民を落著けるのに非常に効果があつたやうに思ふのであります。効果があるといふと甚だ相濟まん譯でありますけれども、實際効果があつたやうに思ひました。病死も十名ありましたので合せて二十二名の犠牲者の墓をあの地に造つた譯であります。隊員はさういふ様な色々不時な悲惨な出來事に遭ひましても、現在居る人は少しも志氣沮喪せずに營々として自分の建設に邁進して居る次第であります。

作物の種類とか、出來工合といふことを先に申しましたが、經營方面のことに付て今少し申し上げたいと思ひますけれども、餘り時間が長くなりますので、これは第二次移民團の宗先生にやつて戴くことに致します。まだ申し上げたいことは澤山にありますけれども、このあたりで一寸結論的にもう暫く話さして戴きたいと思ひますが、結局滿洲移民は可能なりや否やといふ問題にぶつかると譯であります。私は大いに可能なりと云ふ意見であります。それは今まで申し上げましたことで了解して戴けると思ひますが、現在では經營方面から見ますと、一寸考へればどうも位置が偏在して居る爲に、生産す

る物は安く、買ふ物は高いといふことになるのであります。これはこちらで見たと、あちらから見たのでは大分事情に違ひがあります。日本の内地に於ても、東京で見たのと、農村に入つて見たのとは若干違ふと思ふのであります。此は普通農業の特殊性だと思ふのであります。その詳しいことは宗先生から話して戴くとして、經營方面から觀ても大丈夫やつて行けるといふことだけを私は申し上げたいと思ひます。

それから氣候、風土はどうか、と云ふと成程冬は非常に寒い。攝氏零下三十八度といふのが今年の最低の極數であります。併しこれは數字だけを聞くと、恐ろしいやうな寒さに感じますが、又實際に寒いには寒いのであります。一日の最低氣温は大抵日出前であつて、日中は殆ど好天氣で、隨つて氣温も相當に上るのであります。洵に氣持の良い天候に恵まれて居る。實際東北地方の冬期間、雪降りと曇天とに閉ぢ籠められて、外の仕事を仕悪いといふことから見ると非常に宜い。これは殆ど隊員の全部が、女も男も年寄りも皆言ふのであります。内地よりは餘程宜い。

それから病氣に對しても入植當時は若干土地が變る爲に、下痢性の病氣が発生しても、南洋方面とか、或はブラジルあたりの様に猛烈なマラリヤがあつてどうかといふやうなことはないのであります。その間の衛生對策と申ししても、殆ど自分が氣を付けて居れば解決の付くと云ふやうな、即ち

心の持ち方で殆どその病氣は絶滅することが出来るといふことを、少くとも私の居ります所では考へられるのであります。

交通關係はどうかと申しますと、私の居ります所は北朝鮮から一直線に今度鐵道を敷いて貰ふことが出来まして、非常に便利になつて參りました。それから現在有線電話が佳木斯迄通じて居りますし、今年度内には第二次移民團の居る湖南營へも通ずるであらうと思ひます。これも今までの所は不自由でありましたけれども、もう不自由ではなくなつて來たのであります。あちらで宜いことは地形が極く内地と違つて傾斜が緩やかでありますから、將來鐵道沿線から若干入つた地方に移民をしましても、道路の建設費は割合に少くて宜いし、又難工事がなく簡単に交通の便を講ずることが出来るのであります。

それから匪賊の爲にどうだといふこと、これも今日では討伐が徹底して參りましたからして、結局私は早く日本人が入つて工作すれば、少くも滿鐵沿線の警備状態程度までには容易に導き得るのぢやないかと考へて居るのであります。これはどうしてもさうしななければならぬと思ふのであります。

然らば將來どの地方に移民を餘計に送つたならば宜いかと申しますと、これは私一人の腹案であります。私は今度の移民の行く前から、この東部シベリヤとの國境に近い東部の山間地方この邊を全

く日本と同じ色に塗つてしまふのだ。極く簡単にさういふ風に考へて居りました。今尙ほさういふ風に考へて居るのであります。戦争する時は據點といふものが必要であります。それと同じやうに移民する場合にも據點を造つたら宜いと考へて居るのであります。その據點は滿洲の東北部に求めたら極く簡単であります。さういふ風に考へて居ります。尙ほそれ以外に黒龍江省なり、遼河の附近にも移住地は求め得られると思ひます。かういふ移住地を求めてさてどれ位入植し得るか、私は具體的には一寸申上げ兼ねますが、少くも將來に於て滿洲の輿論を左右し得るだけの日本人が、あの土地に入らなければならぬ。而も農業移民が最も可能性が多いと認めて居ります。出来れば一千万人位滿洲に農業移民を入れたい。大負けに負けても五百萬位どうしても入れたいと考へるのであります。

最後に私共の考へて居ります事は、總て事業をするには大勢の力が必要であります。滿洲に出掛ける所の移民の背後に、國家を擧げた後援があれば、その移民事業は確實に、さうして割合に順調に發達して行くであらうと思ひます。それが爲には是非共充分な後援が欲しい。具體的にはどうかといふことは申上げ兼ねますけれども、兎に角一家の中でも弟を分家させるといふ爲には、一々數字を擧げなくたつて、心と心との結び合ひでやつて行けば暖い分家出来るし、それと同じやうに滿洲に日本を移民を送る場合にも、その暖い心を以て後援して行けば、數字に現れても宜い結果が出ると私は

考へるのであります。私共あちらに参りました、色々批判も受けて居りますが、又一面非常に後援も受けて居りまして、これは隊員のみならず、吾々も非常に感謝に堪へない次第であります。あちらこちらから慰問品を送つて戴いたり、或は慰問の手紙を戴いたり、洵に有難い次第であります。今後も尙ほ私共のみならず、後續移民として行く多數の人々に有力なる内地の方々から暖かい、御後援を戴くといふことは非常に望ましいことであり、又有難い事であると思ふのであります。甚だ漠然たる御話を致しまして、御忙しい所を却つて失禮であつたと思ひますが、これで私の話を終りたいと思ひます。(拍手起る)

湖南營移民の實況

拓務省第二次移民團指導員

宗 光 彦 氏

私は第一次移民團より一ヶ年遅れまして一昨年(七月)三江省依蘭縣の湖南營地方に移住致しました。(地圖を示して)是が佳木斯でございます、此の邊が第一次移民の入植地であります。第一次の入植地から更に南西に下つた約八里ばかりの所に湖南營といふ所がございます。其處に入ります前に移住地として何れの土地を選ぶかと云ふ、大體は北滿といふことは決つて居りましたが、土地の選定に参りました、第一次移民の入植地を通りまして更に河に沿つて下りまして、恰度現在の移住地である湖南營の附近に行きまして、此處ならばと私は非常に惚込んだのであります。大體私は古くから滿洲に居りまして、どうしても滿洲に大和民族が根を生やさなければいけない、それには幸ひに自分のやつて居る農業移民が最も大事である、さう信じ切つて居た男なんでございます。唯だこの滿洲事變の起る以前は事實はさう考へても居り、又出來るとも信じて居りまして、國際關係上思ふやうには行きませぬでした。然るに滿洲事變を轉機と致しまして、吾々日本人が滿洲の何處にでも自由に

行けるといふことになりましたので、もう何事も考へる必要はありません、出来ると思つて居ることを實行に移せばよいのだといふことになつたのであります。そうして私が北滿の移住豫定地を見ました時に、私が長い間南滿に居つて、南滿の土地の農業要素を見て來たのに比べまして、寧ろ北滿の方が遙に勝れて居るのを知ることが出来まして、南滿の農業の特色と申しますと、極く南の方では棉も出来ず、果物も出来ず。けれども北滿は又北滿として或は小麥の如き、或は大豆の如き、或は又砂糖や大根や亞麻の如き良い作物が出来ずから、之を作物丈から比べて決して遜色はないのでございます。土地の善い悪いといふ點ではどうかと申しますと、北滿の土地は實に肥えて居ります。到底南滿の土地の及ぶ所ではありません。亦た氣象はどうかと申しますと、冬はかなり寒いけれども作物を作るのには何も支障がないばかりでなく、人間の住むのにも決して困難がございませぬ。更に移民として大勢の人間を容れることから考へますと、滿洲人が今まで澤山に居る所は何うも支障が多いのであります。然るにこの移住地方面は人口が稀薄でありますから大なる支障がなく入れ得るといふ點に於て最も都合がよいと見たのであります。又地價は遙に北滿の方が安いのでございます。而もこの移住地に數年後に於て交通が便利となるといふことも確な筋より聞きました、此處は必ず日本の移民が成功し得る所だと確信したのでございます。そこでこの土地は吾々の入植すべき最も好い所である

と考へましたから、其處に入植することに決定を致しました。斯くして第二次の移民團を引連れまして、昭和八年の七月に入つて行つたのでございます。

入植しましてから早速簡單なる事業計畫の大綱を拵へまして、之を移民團員に發表し、其の後は團そのものと致しましては勿論その計畫に依つて仕事を進めて行きました。團員にもこの計畫をよく遵奉して進むことにさせました。ところが種々様々な故障が起つて來たのであります。先づ第一の故障に打突かつたのは、入植致しまして間もなきことであり。其は土地にも慣れない、氣候にも慣れないといふ原因から、團員の内にも多數の下痢患者を出したことでございます。その外豫て持つて居る病氣が出た者もあります。尙ほ又餘りに風土或は環境の變化した關係から、團員の中に唯何となく寂しさを感じて厭になつた者もありませう、さういふことで入植してからまだ現地に落着かない間に退團者を出すことになりました。洵に残念に思ひまして種々様々或は慰めたり、或は鞭撻したり、或は將來の有望なことを話したりしますけれども、諾かない者も少くありませんでした。斯くして退團した者が五十名にも上つたのであります。その後にも退團者が出ましたけれども、色々の事情があつて家庭的に退團する者、或は病氣となり退團するといふやうな已むを得ない者もありましたので、私共指導員と致しましては洵に残念に思ひましたけれども、已むを得なかつたと思ひます。現在三百數十名に

なつて居りますが、五百名足らずから四割弱を減じたやうな恰好でございます。その中には尊き犠牲者も居ります。即ち十三名の戦死者と五名の病死者が出ました。斯の如く十三名までも戦死者を出したといふことは、匪賊の襲撃に會つたからでございます。

初め入植しました當時ほどの程度に、亦た何處に匪賊が居るか分りませんでした。昭和八年八月の初めに突然襲撃を蒙りまして、貴い最初の一名の犠牲者を出しました。そこでこれは氣を付けねばならないといふので、更に警備を十分に致しました。その後漸次吾々が彼處に入つた真意が彼等の仲間にも分つて來たと見えまして、匪賊の横行は少くなりました。斯くする裡に寧ろ匪賊の方から歸順を申込んで參りました。そこで吾々はその歸順を許して、彼等を歸農させるとか、或は他の職業に就くやうに勧めるとか致しましたが、どうしても仕事のない者は自警團に編入するやうに斡旋するといふやうな方法を執りましたところが、非常に彼等は喜びました。殊にその中の頭目であつたところの王喜信といふ男の如きは大變に喜びました。又斯くなつた爲に非常に其の地方が平穩になりましたので、地方の農民も非常な喜びを感じたと見えて、吾々に感謝の言葉を始終掛ける様になりました。今まで會てこれ程穩かになつたことはなかつた、こんなに平和になつたのは全く屯墾（日本移民）の蔭でございますと言つて喜びました。然し此の様に匪賊が平穩になつたのも約百日ばかりの間で、そ

の次に起りましたのが例の土龍山事變でございます。土龍山事變の爲に吾々は第一線に立つて居るものとして、殆ど毎日のやうに彼等から襲撃を受けましたが、幸に大きな人命の犠牲を拂ふ事なくして之を平定することが出来、亦た現役兵に依つて漸次討伐が出来ましたので、現在では殆ど大きな匪賊は其影を没して終ひました。同時に又地方の農民、或は商人の如きは、吾々の入つて居ることに付て漸次其真意が分つて來たと見えまして、最近では寧ろ進んで吾々に土地を提供しようとも考へ、或は自分の方の村に屯墾が來て呉れるといふまでの状況に變つて來て居ります。私が考へますのに、彼の土龍山事變の如きも全く日本の政策に對する誤解であつたと思ひます。現在あの時の匪賊の頭目であつた謝文東といふ男は今ではさう述懐して言つて居るさうであります。全く考へ違ひをした爲に飛んでもないことをしてしまつたと。随つてもうあゝいふ風な大集團の匪賊は北滿方面から影を没するのであらうと思つて、私共は現在は非常に喜んで居る次第であります。

本當に吾々の爲すこと、亦た吾々の真意を理解した者の中には、吾々から言へば感謝に値するやうな滿洲人が居ります。その一つの例として、入植當時匪賊の頭目をして居つた王といふ人間が居りますが、彼は非常に吾々から歸順を許されたことを喜んで居りましたが、その後吾々移民團に非常に心服しまして、小さい匪賊の横行に付ては始終移民團と連絡を取り、吾々に報告を寄せて居りました

が、土龍山事變があつた時に、謝文東から味方に就けと言はれたのです、すると王は言下に之を退けて、自分はもう二度と日本軍に抵抗することはしない、だから君は折角さう言つて呉れるが、僕は君に加擔しないと云つてどうしても諾きませんでした。そこで謝文東は王を呼び寄せて、ぜひ自分の方に附けと言ひましたが、王はやはり、僕は附かないと言ひましたので、謝文東はたまり兼ねて拳銃を突付けて、これでもかと威嚇しましたが、いやそれでも僕は君に附かないと言つて、王ははつきりと断つたといふことです。そこで謝文東は王を自分の家の後に連れて行つて射殺をしてしまつたのであります。射殺されてまでも王が敵に附かなかつたといふことを知つて、私共は洵に相濟まなかつたと思ふと同時に、洵に感謝して居る次第であります。

さういふ匪賊の障碍が私共の事業の進行を妨げた事は洵に大きうございました。匪賊の障碍が若しも起らなかつたとしたならば、吾々の事業は今日もつとずつと進んで居つたであらうと私共は考へて居ります。斯る障碍の裡に昭和八年の秋は過ぎ、冬になりましたので、私共は將來建築すべき家屋の建築材の伐採に着手しました。攝氏の零下三十何度の吹雪を侵して、毎日團員は營々として伐採に従事したり、或は製材を致したり、或はその運搬を致したりしてよく働きました、併し見る見るうちに段々に建築材が蒐集されるのを見て、皆苦しい中にも將來に非常な希望を有つたのでござい

ます。斯の如く仕事が始りますと、懷郷病に罹つて居つた者も何となくその氣持が漸次晴やかになつて行きました。更に耕作の方は、昭和八年の年は七月に入植しましたので、僅に野菜位しか作れませんでした。昭和九年、詰り昨年は大いにやりたいと思つて居りました所が匪賊の蜂起がございまして、小麥だけは適當の時期に播きましたので相當の成績を得ましたが小麥以外のものは、恰度戦争最中で、適當の時に播けませんで、少し遅れて五月の終から六月の初めに種子を下ろしましたので、成績は概して良くありませんでしたが、それでも先づ平均の七割位の收穫を擧げ、彼處に初めて入つた團員としては、あの地方の農業に對する知識と技術とを磨くことが出来ました。尙ほ家屋の建築をしなければならぬといふので、やはり昨年の夏から家屋の建築を始めましたが、團員も皆な自分の家を造ることであり、又この家が出来なければ自分達が入つてゆつくりした氣分で事業に邁進することが出来ないといふので、非常な興味を以て家屋の建設に當りました。極く簡單ではありますけれども、併し住み心地の好い家をとといふので、素人である彼等——その中に僅に大工、左官等が混つて居りますけれども、大部分の者は素人でありまして、彼等が毎日建築の爲に働きましたので、秋になりますと先づ三割方程家が出来まして、自分の造つた新しい家に引越すことが出来ましたし、又秋にはボンの三十家族であります。内地から呼び寄せた家族もその中に入つて住むことが出来たのであります。

す。その家が出るまでは在來の滿洲人の家、これは滿洲人農家の家を借り、或は買収してそれに住んで居りました。大體さういふ経過を取りまして去年の秋になりましたので收穫するものは收穫し、又更に今年の事業の爲に木材伐採等に從事して來たのでございます。その他荷物の運搬等に當つて、或はトラックを使つたり、或は馬車を使つたりして、佳木斯方面から移植地に荷物を運搬することは随分困難なことが多うございました。又危険も伴ひましたが、併しその中を眞に汗みどろになつて働いて來たのでございます。

又半面に於ては實に愉快なことがあつたのでございます。先づ食物の方面でございしますが、概して食物は結構なものを戴いて居るのでございます。拓務省の補助金と致しましては一人當り月五圓戴いて居るのでございますが、勿論五圓宛で充分であります。それはまだ處女地でありまして、山や野原に澤山野禽や野獸が居ります。最も多いのは雉子でございします。私共はまだ鶏は僅かしか飼つて居りません。全體で二三百羽しか居りませんが、雉子は各部落の周りに殆ど無限に居ります。さうして極く簡単に獲れるのでございます。罾を掛けて脚を引掛けて見たり或は獵銃で獲りますが、さういふことも一寸面倒な場合には、與へられて居る普通の小銃で撃つのでございます。實は小銃で雉を撃つとやかましいので隠れて撃ちますが、一發撃つと罰金を二十五錢徴ることにして居ります。移住者にと

つてなか／＼二十五錢のち金も大切ですから、彼等も撃つことになる二十五錢取られるから、成るべく澤山中でやうとする。そこでぞつと狙つて居つて、雉が段々餌を拾ひながら數羽重なつて來た時に撃つと巧く行けば一發で二三羽獲れる、移住者は多くは兵隊上りで射撃はなか／＼上手でございしますから、一發で二羽獲ることはよくあります。さうすると一羽で二十五錢拂つてあとは儲けといふ譯でございます。(笑聲)雉子は實に澤山居ります。この前現役の隊の方がゐらつしやいましたが、その方が途中で拳銃で二羽撃つたと言つて居られました、之らは上手な人だと思つたのでありますが、兎に角其程澤山居りますので、副食物の方は雉子だけでも結構でございます。殊に雉子の肉を刺身にしてお食べますが、まるで鮪の刺身、或はそれ以上に美味に食べられます。獐シカも澤山居ります。此は鹿の一種でございしますが、ピョン／＼跳んで歩いて居ります。殊に秋から春の初に多く居りまして、秋は最も多いしうございしますが、これも澤山居りますので幾らでも獲れます。私共の宿舍の玄關先には正月の前などは澤山の獐が轉がつて居た位です。其ですから喰べ飽きるくらゐ喰べられます。それから魚も居ります。魚は松花江にえらい大きなのが居りまして、河鮫などは長さ一丈もあらうかと思ひます。私共の所は川上になりますので、大きな魚も精々一尺五寸ぐらゐであります。種々様々の魚が澤山居ります。秋になると水田などは水を掛けて抛つて置きますが、その田には一二寸ぐらゐの魚が一

ばい胡麻を撒いたくらゐに居ります。それを獲つて佃煮などにして食べます。冬も魚が居るといふのは有難いのですが、冬になると一面に氷が張ります、川や池に居ります魚は、氷が四尺も五尺も厚く張つて來ますので淀みに澤山集つて居ります。それが段々固まつて非常に澤山水の下に居りますので氷を打割つて網ですくへば澤山魚が獲れます。

或る時のこと團員が二三人行きまして氷の下から魚を獲らうといふので、どん／＼氷を割りますと、下の氷の中に魚が一ぱい閉ぢ籠められて居るのが出て來ました。初めの内は一匹々々手で獲つて居りましたが、終ひには氷を割つてその塊を其まゝ持つて歸りました、かうして置いて溶けたらば順次食べて行かうと言つて居りました。ところが茲に一つの疑問が起りました、その魚を氷の中から出して叩いて見るとかん／＼音して居るのでこの魚は生きて居るか、死んで居るかといふ疑問が起りました、かんからかんに凍つて居る魚が生きて居るといふことがあるものか、と云ふのが大體の輿論とでも申しますか、大勢でいろ／＼考へて議論が二つに別れたのであります。私が考へますのにはどうも冬の間魚が皆死んでしまふといふことになる、春になつて氷の解けた時には魚が皆死んで浮いて居る筈であるのに、さういふこともないし、生理學の方から考へても生きて居る理窟は立つ、其で大分問題になつて此の魚が生きて居るか死んで居るかは實驗に依つて決めよう、若しも勝つたなら

ば、今度機會のあつた時四斗樽一本を負けたる者に出させるといふ賭をしよう、(笑聲)かういふ譯で始めたのであります。さうして洗面器の中に其の氷の一部分を取つて置きました、其の中には長いのは五寸位小さいもので二三寸の魚が澤山居ります、恰度魚のさんとの様なものであります。それに水を入れて溶かす事に致しました。段々溶けて來るのを時々皆來て見て居る、仕事をしながら行つたり來りして見て居りましたが、夜になつて就床する頃になりますと、氷の大部分は溶けて一部分の魚は水の中に出て來ましたが、見るとちやんと背を上にして居りましたので、これは自分が勝つたなど喜んで居りますが、愈々翌朝になると魚が動いて居りましたので、私は思はず萬歳を唱へて、負けた者に奢らせる事になつたのですが、相手は團員のことですから奢らせるといふ譯にも行かず、結局私が勝ち祝に奢つたといふ様なことになりました。御話が少し横道を致しましたが移住地ではさういふ風に副食物には魚なども良いものを食べて居ります。内地から來た細君連も皆非常に肥へて居ります。昨秋に入つて來た細君連中なんか皆肥つて參りました。殊に内地では乳がさつぱり出なかつた妻君が、此處に來たら御乳がこんなに張りまして、張り過ぎるくらゐに出て居りますと云ふ事でした。さういふ譯で食物は洵に結構な、寧ろ内地の田舎で食へて居たよりも遙かに良いものを食べて居ります。

家屋は頗る簡単な構造でありますが、自分達にとつて氣持の好いものを造らうといふので只今やつて居ります。大體外側の窓、入口の扉等はちよつと洋式のやうに見えますが、中に入りますと、オンドル温突若くはペチカを設けて居ります。御承知のやうにこの温突と云ふ採暖装置は非常に温いのであります。それで冬でも内地に居るよりもつと樂だと家族達も言つて居ります。温いも蔭かどうか知りませんが、秋になつて細君連が大分酔っぱいものを食べたくなつて來て居ります。これから見ましても非常に衛生状態は良いと思ひます。さういふやうなことで、困難なる仕事の中にも生活が愉快でございます。

娛樂方面に掛けましては大したことも出来ませんが、大體班毎に一臺ぐらゐの蓄音器を有つて居りまして、夜なんかは盛んに蓄音器で流行唄の練習をして居ります。「東京音頭」の如きも東京の方々よりもつと旨く唄うのではないかと思ひます。尙ほ夏の間は時々河に魚を釣りに行くとか、或は相撲を取るとか、或は芝居をするとかといふやうなことで、樂んで居ります。

尙ほ吾々は農業經營以外に一つ非常な希望とでも申しますか、將來があるといふ氣分を持つて居るのでございますが、それは私共の居ります湖南營から七虎力河といふ河に沿つて溯つて行きますと、約八里ばかり行つた所で、石炭の露頭を見出して居るのであります。それを掘つて居りますが、この

露頭を見出すまでに愉快なことがあつたのであります。それは或る時のこと滿洲人の獵師が二人で狐を獲りに行つたのです、さうすると一匹の狐が一つの穴に入つて行きましたので、早速その穴に狐燻しをする爲めに、木の葉とか枯枝を入れて火を點けたが暫くしますとそれがどん／＼大きく燃え出して、煙どころか火を吹いて燃え出して來ましたこれは大變だといふので火を消して、段々穴を掘つて見ますと石炭が出て來ました。恰度私が用事がありましたので其所に出掛けて行つて見ますと、良い石炭でしたから、その一塊をオンドルに入れて見ますとよく燃えます、燃えて居る石炭の塊を取り出して見ますと殆ど煙が出ないで燃えて居ります、私は素人でよく分りませんが、これは無煙炭だと判断して、良いものを見出したと喜んだのであります。その後匪賊のこととか、いろ／＼の事情がありまして、これを大きく掘るといふこと迄には行つて居りません、時々行つては僅に掘つて來るといふ位であります、その炭田は餘程大きいものではないかと思つて居ります。第一次移民團の移住地よりもつと東の方まで續いて居るので、尠くも長さは三四十里、幅は十里ぐらゐあるではないかと思ひます。これは何も私共には直接どうといふことは出来ませんが、私共が採掘事業をやるのではありませんか、斯かる炭田が存在して居ると云ふ事は非常に將來があるであらうといふので、團員は大變朗かな氣分になりました。

尙ほ經營資金に付て申上げますと、私共は過去一年半餘りの間に移民團として使ひました金を計算して見ますと、極く大體でありますが、一人當一千二百圓ぐらゐになつて居るやうでございます。この一千二百圓の中には、去年の匪賊に依る損害といふものも相當澤山入つて居ります。匪賊を防ぐ爲に防備施設をしたり、或は種々様々のことをしましたので掛りました。又入植する時には四百八十名ばかり入りましたが、そのうちに段々人が減りましたので、その減りました人が使つた金も入つて居ります。尙又戦死した者もありまして、その弔慰金等も含まれて居ります。その全體で使つたものを現在の三百數十名で割つたのでございます。隨てこの千二百圓はさういふやうないろ／＼の故障がなかつたならばもつと、少くて濟むべきものでございます。又今後どのくらゐ要るかと申しますと、尙ほ約七百圓ばかり要る見當でございます。それを合計致しまして約千九百圓ばかりあれば私共の仕事は完成する見當を著けて居ります。

その他に必要なものは土地でありますが、土地は現在其一部分を商租致しまして、残りの部分も目下商租中でございますが、一人當り二十町歩位の耕作地を持ちまして、其他に五町歩程の山と野原とを持つことになつて居ります。この土地代に土地改良費も加へますと八百圓ばかりの資金があつたらよいといふ見當でございます。

そこで既に支出したものと今後要る見込の經費の合計は千九百圓ばかりになつて居りますが、普通の場合移民一人に要す經費の大體の見當を著けて見ますと約千二百圓もあれば恰度よいぢやないかと考へて居ります。これに土地代を加へて約二千圓もあれば私共のやる程度の移民は出來上るであらうと考へて居ります。

次に移民の收支はどういふ狀況になつて居るかと申しますと、現在滿洲人のやつて居るあの附近の農業の收支は平均しまして一町歩に對して支出が四十一圓七十錢、収入は五十二圓七錢になつて居りますから差引致しますと一町歩當り十圓三十七錢となりまして、極て少い利益でございます。一體何故そんなに利益が少いのかと申しますと、結局生産物を搬出します際に運賃に喰はれて終うのでございます。一昨年の秋から昨年の夏に掛けて、極く大雜把ではございますが、大豆の價格を大連と現地で比較して見ますと、私共の湖南營に於ける値段は三十噸貨車一車の大豆が金五百三十三圓になります。すが、當時大連に於ける平均相場は金二千五百圓になります。殆ど五倍に近うございます。その差は何處から來るかと申しますと、途中の運賃であります。湖南營から佳木斯の港まで持つて行くのに金三百二十五圓ばかり掛る、佳木斯から哈爾濱までに三百圓ばかり、哈爾濱から大連までの汽車賃が九百圓ばかり掛ります。その他に税金とか、手数料とか、商人の利益とか掛りまして、かういふ結

果になるのであります。結局大きいものは運賃でございます。そこでこの交通の便否と云ふことが吾々の土地の將來を決定するものであります。幸にも寧佳線が來年の秋迄には開通致しまして、私共の移民地を通ることになつて居ります。

そこで鐵道開通後に於ける諸種の狀態を想像致しますのに、大體北鮮の新しい港の羅津から私共の移住地まで參ります距離は、大連から四平街に參ります位の距離と同じでございます。四平街に於ける大豆の値段を考へて見ますと、大連と一割も違ひません。さすると若しもこれから計算して考へたならば、現在の價格よりも非常に騰貴する筈でございます。然し鐵道の運賃の關係もございませうし、又搬出する手數等もございしますので、假にさそ迄行かなくてもよいことに致しまして、種々考へて拵へて見ましたら、大體次の様な數字が出ました。即ち鐵道開通後の一町歩の收支計算は支出の方が金四十二圓二十八錢で収入が金九十四圓〇八錢になり差引金五十一圓八十一錢の利益といふ數字が出て居ります。勿論この通りに行くものと絶對保證することは出来ませんが、實際に即して考へたこととでございますから先づ大差はないと考へて居ります。而もこれは單に一町歩の作物にのみ付いて考へたのであつて、實際二十町歩を經營することになりますれば、これに家畜の飼養も伴て參ります、又その他に副業のやうなものもありまして、もつと有利になるべきだと思ふのでございます。

假りにさういふ方面の利益がないと致しましても、二十町歩の土地を耕作するのみで約一千圓餘の利益を擧げる見當でございます。これは他にも二十町歩の土地經營に依る收支といふものを立てて見ましたが、大體その位の見當の利益は上がると思ふのでございます。随つて鐵道開通後に於けるあそこの移民は經濟的に結構だと思つて居ります。今日までのいろ／＼の經驗から、又實際にやりました實績から申しましても、彼の地に於ける移民は既に峠を越してしまつて、もう遠からざるうちに成功の域に達するのだといふ見當を著けることが出来て居ります。唯この際第一次、第二次の僅に二つの移住地經營團を以て足れりとせずして大にやる必要があります、滿洲移民は絶對に必要なといふことは、恐らくこれは今日日本上下を通じて充分分つて居ることだと思ふのであります。而も吾々のやつた實驗に依つて移民が可能であるといふことも決定的に言ふことが出来ます以上は、ぜひこれは國策として大々的に滿洲移民を爲すべきものぢやないかと私は感ずるのでございます。私が彼處に參りましたのも、單に私一個又は私に連れて行つた僅かの人間のみが移民としてあそこに落着く、それだけを總ての目的として居るのではありません。私達が命を投出してあそこに參りましたことは、結局日本民族の大移民地として、將來永遠に大和民族が發展し、同時にあそこに東洋平和の源泉を作り出すといふことに大なる希望を繫いで居るのでございます。どうか皆様のち力に依りまして、この事業を

更に進めて行き、眞に國策としてこれを遂行し得るやうに、私はも願をして已まないののでございませす。洵に取とめのないお話を致しましたけれども、これを以て終りと致します。(拍手起る)

昭和十年三月二十六日印刷納本 (非賣品)
 昭和十年三月二十九日發行
 編輯兼發行人 篠崎嘉郎
 東京市澁谷區原宿三丁目百七十番地ノ十號
 印刷人 島連太郎
 東京市澁谷區原宿三丁目百七十番地ノ十號
 印刷所 三秀舎
 東京市神田區美土代町十六番地
 發行所 日滿實業協會
 東京市麹町區丸ノ内三丁目十四番地
 電話丸ノ内(23)三五番一三八番
 振替貯金口座東京四五八〇二番

